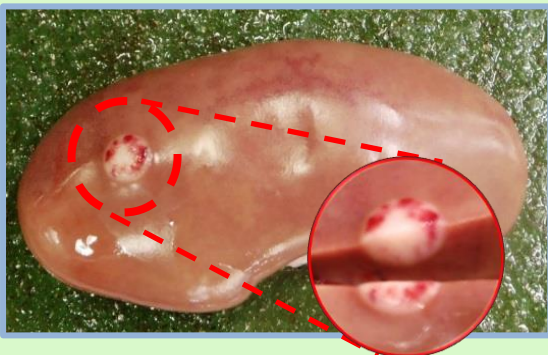


広島市食検だより

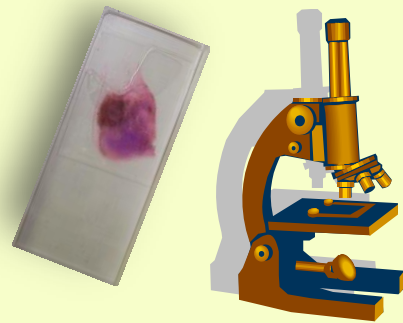
2016年10月 第32号

ウシやブタも“がん”になる？

と畜場では、獣医師がウシやブタが食用にできるかどうかを一頭ずつ検査しています。見つかる病気には、人間と同じようにさまざまな種類がありますが、そのひとつに“がん”があります。検査で「がんかも？」と疑うお肉を見つけたら、その部位の細胞を顕微鏡^{けんびきょう}で観察して、病気かどうかを詳しく検査します。今回は、広島市と畜場で発見されたがん検査を紹介します。

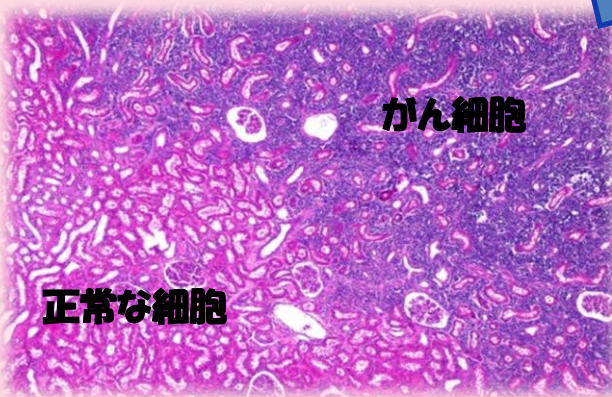


ブタの腎臓にコロッとした白いかたまりを発見！がんの可能性あります。ここを検査しましょう。腎臓以外にも、肝臓や全身のリンパ節に同じようなかたまりが多数見つかりました。



腎臓をうすくスライスして、細胞に色をつけたものを顕微鏡で観察します。

※ 顕微鏡で観察する方法は「食検だより第21号 病理組織検査について」をご覧ください。



白いかたまりだった部分は、濃い紫色に染まり、正常な腎臓の細胞とは違う形をしています。これががん細胞（右上）です。がん細胞は、ピンク色に染まった正常な細胞（左下）に、しみ込むように広がっていました。

検査結果は「**ブタの白血病**」、不合格です。食用にはなりません。

その他、皮膚、筋肉、卵巣など様々な部位にがんは発生します。また、がんの種類も多くあります。これらも同じように検査していますので、流通することはありません。